

2016年10月21日

## 第680回 本委員会の主要議題と概要

日本化学繊維協会

日本化学繊維協会（会長 日覺 昭廣 東レ株式会社 代表取締役社長）では、本日11時より第680回 本委員会を開催しました。

主要議題およびその概要は以下の通りです。

### 1. エコプロ 2016 への化繊協会コーナー出展について

日本化学繊維協会は、12月8日（木）～10日（土）の3日間、東京ビッグサイトで開催される国内最大規模の環境展「エコプロ 2016～環境とエネルギーの未来展」（主催：（一社）産業環境管理協会、日本経済新聞社）に、化繊協会コーナーを出展します。

- ・エコプロ展への出展は2004年から続けており、今回で13回目となる。
- ・今年度の展示テーマは、「未来を創る化学せんいの先端技術」で、①サステナブルな化学せんい、②スマート社会を支える化学せんい、③省エネ・軽量化に役立つ化学せんい、の3テーマで化学繊維の持続可能社会への貢献を紹介することとしている。
- ・この他、①説明専門員による高機能・高性能繊維の解説と実験（化学せんい実験教室）、②クイズラリーなどのアトラクション、③高機能・高性能繊維素材の実験動画（サイエンスシアター）の映写も予定している。
- ・化繊協会コーナーは、東展示場5ホール/小間番号5-041。

### 2. CEATEC JAPAN2016 へのセミナー参加の概要について

日本化学繊維協会は10月5日（水）、幕張メッセで開催されたCEATEC JAPAN 2016のオープンステージで「スマート社会に貢献する先端繊維素材」をテーマにセミナーを開催し、その概要について報告がありました。

- ・冒頭、経済産業省の杉山生活製品課長からご挨拶を頂き、引き続き”感じるせんい”、“繋ぐせんい”、“創るせんい”をサブテーマに、東洋紡、東レ、帝人、旭化成、三菱レイヨン、クラレ、ユニチカ、日本グラファイトファイバーが先端

繊維素材を紹介した。

- ・セミナーとあわせて、オープンステージ内で各社が簡易展示・パネル展示を実施した。
- ・来場者数は約 250 名（会場外立ち見を含み、途中入退場者ののべ人数）。用意した座席（約 180 席）はほぼ満席となり盛況であった。
- ・異業種の展示会における情報発信は化繊協会として初の試みである。

### 3. 第 55 回ドルンビルン国際化繊会議の概況報告

9 月 20 日（火）から 22 日（木）の 3 日間、オーストリアのドルンビルンにおいて、第 55 回ドルンビルン国際化繊会議（主催：オーストリア化繊協会）が開催され、その概要について報告がありました。

- ・本会議は、欧州繊維産業の産学研究者の交流の場として、1962 年に第 1 回目を開催、以降毎年、ドルンビルンで開催されている。
- ・今年度は、ドイツ、オーストリア、スイスなど、34 か国から約 600 名が参加し、盛況であった。日本からも過去最多の 28 名が参加した。
- ・テーマは、①革新的な繊維、②自動車用繊維、③不織布向け繊維、④テキスタイル、⑤仕上げ剤と機能添加剤の 5 テーマが取り上げられ、計 100 件の報告が行われた。日本からは、帝人、東レ、クラレ、東洋紡、旭化成、ユニチカ、村田機械、竹本油脂から計 8 件の発表が行われた。

<本件についての問い合わせ先>

担当：日本化学繊維協会 技術グループ 兼 業務調査グループ 川名（03-3241-2312）

以上